

本気野菜 キュウリの育て方

①土づくり: 日当たりが良く、できるだけウリ科を連作していない場所を選びましょう。

↓【植えつけ2～3週間前】

堆肥2kg/m²、苦土石灰100g/m²を混ぜ、よく耕して土づくりをしておきます



配合肥料[8-8-8]など100g/m²を混ぜ込み、幅約60cm、高さ20cmほどの畝を作り、マルチフィルムを張って下さい。マルチフィルムを張ることで、雑草や泥ハネを防ぎ、病気にかかりにくくなります。

【植えつけ1週間前】→



②植え付け（畑での栽培をお勧めします）:

【畑の場合】日当たりがよく、できるだけウリ科を連作していない場所を選びます。植えつけ2～3週間前に、堆肥2kg/m²、苦土石灰100g/m²を混ぜ、よく耕して土作りをします。有機石灰（牡蠣殻など）を使うと混ぜ込んですぐに苗を植えつけることができます。植えつけ1週間前に配合肥料[8-8-8]など100g/m²を混ぜ込み、幅約60cm、高さ20cmほどの畝を作ってマルチフィルムを張って下さい。マルチフィルムを張ることで雑草や泥ハネを防ぎ、病気にかかりにくくなります。

株間50cm以上で植えつけます。植え込み直後は風で折れたりしないよう、株元の茎を仮支柱に結わえておきます。大きく生長してきたら、2mほどの支柱を立て、伸びてくる「つる」がからみ易いよう、紐やネットを張って備えておきます。つるはぐんぐん伸びるので1週間に1度は支柱などに麻紐で誘引して茎葉が折れないようにしましょう。



↓防風・防寒対策



←【プランター】日当たりのよい場所で育てます。



【コンテナ・プランターの場合】土の容量が15L以上の容器（10～15号程度の深鉢）に1株植えとします。できれば新しい野菜用土をご用意ください。元肥は控えめにしておきます。日当たりの良い場所に置きましょう。

③水やり: 水やりには特に注意。花が咲き、果実が肥大し始めたら水切れに十分注意しましょう。水切れに敏感で一旦過乾燥を起こすと、花が咲いてもすぐ落ちるなど収穫に影響します。畑での栽培はあまり問題になりませんが、特にコンテナ栽培の場合は萎れさせないよう、こまめに水やりを行うようにします。

④追肥: 草勢を見ながら2週間に1回を目安に配合肥料約30g/m²を施して、株の勢いを保ちます。生長が早い夏場は毎日の水やりを薄い液肥に替えてもよいでしょう。



【追肥】畑の場合: 畝の両側に1株あたり配合肥料50g程度すき込み→



④整枝: 始めの5～6節までに出てくる側枝（子づる）・雌花は全て摘み取り、その後の側枝は葉を1～2枚残して先端を摘み取り、芯止めします。

また、収穫が進んだ生育中盤に、株元に近い老化した葉を摘み取るようにします。風通しをよくして病気の発生を抑えるために、下から5節めまでのわき芽は早めに摘み取りましょう。

⑤収穫: 若い果実のうちに収穫することがポイント。株の消耗を防ぐために、最初と2番目につく実は若獲りします。以降は、品種によっておいしいタイミングがあるので、それぞれの収穫適期サイズ時に採り遅れないように注意してください。

特に夏場は開花してから1週間ほどで収穫可能になり、朝と夕方では大きさが変わるほどの速さで生長します。放っておくとヘチマのような「成熟果」になってしまいますが、種を除き漬物に利用することも可能です。

●収穫適期サイズは、23～25cmです。→



●その他ポイント: ・植え付け時（直後）の断根に注意してください。キュウリは葉が大きく風の抵抗を受けやすいため、植付け後に苗がぐらついたり、風で倒れたりすると根が切れることがあります。植え付け直後は必ず仮支柱を立てましょう。水切れにはくれぐれもご注意ください！